

プロジェクト課題 No. 2

利府梨新規就農者のジョイントV字樹形栽培
技術の定着と環境にやさしい防除技術の習得

活動期間：令和8年度～令和10年度

対象者：令和7年度新規就農者2人、（Pear・カレッジ・りふ会員10人、JA仙台利府梨部会59人）

チーム員：◎渡邊真文、関 拓真、菅原克哉、高橋晋太郎

1

1. 課題の背景・ねらい

【背景・ねらい】

- 令和7年度に2人が新規就農 2人ともジョイントV字樹形栽培に取り組む。
→なしの基本的な栽培管理に加え、ジョイント樹形特有の管理技術の習得
- 近年の夏季高温傾向等の影響により、ハダニ類やシンクイムシ類の防除が課題。
→天敵ダニ製剤の効果的な活用等、防除技術の向上

【令和8年度 定性的目標】

- 基礎的な防除技術とジョイントV字樹形栽培への理解が進む。
- 夏の猛暑に対応した環境にやさしい防除技術の習得が進む。

【定量的数値目標】

- 青年等就農計画における所得目標の到達率（対象2人の平均値）
現状(R7) R8 R9 R10
0% → 20% → 40% → 60%

2

ナシのジョイントV字樹形とは

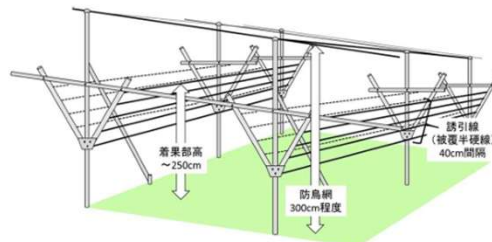
ジョイントV字樹形とは、

主枝高を従来よりも下げた新しいジョイント樹形です。従来180cm程度の主枝高を70～80cmの高さとし、そこから側枝を斜立させて、仰角60°の架線に誘引することでV字の樹冠を構成する樹形。



◎専用棚が必要

ジョイントV字樹形では樹形に適応した専用の果樹棚が必要です。



神奈川県農業技術センターで使用している棚の例

農林水産省
資料より

3

2. 活動内容

(1) ジョイントV字樹形栽培技術の定着

定期巡回による栽培技術支援

新規就農者ほ場を巡回し、情報交換、栽培上の疑問点解消及び栽培管理、病害虫防除等について、情報提供・支援した。



技術情報資料「利府なし情報」の提供

生育状況、栽培管理の留意点及び病害虫防除の留意点等を取りまとめた「利府なし情報」を生産者、関係機関に提供し、栽培技術の向上を支援した。



4

2. 活動内容

(2) 環境にやさしい防除技術の習得

フェロモントラップによる害虫の
発生消長データの把握

今年度からなしの主要害虫であるナ
シヒメシンクイ、モモシンクイガの
誘殺数調査（週1回）を実施



天敵ダニ製剤の普及・啓発

新規就農者へ天敵ダニ製剤の導入啓発
導入生産者ほ場のハダニ類発生状況や生産者
との情報交換



5

3. これまでの活動成果

(1) ジョイントV字樹形栽培技術の定着

- 樹体ジョイント作業（接ぎ木）や新梢伸長に伴う枝の管理等、着実にジョイントV字樹形栽培技術の習得につながっている。
3月に植栽→ジョイント作業→4月に一部未発芽樹→5月上旬に補植・再ジョイントを誘導
→現時点で欠株（枯死）は見られない状態
- ほ場でのハダニ類の発生状況診断等、病害虫防除に対する理解度が向上している。

新規就農者の声
定期的な巡回や技術情報等の提供に
より、なし栽培技術向上の参考と
なっている。



6

3. これまでの活動成果

(2) 環境にやさしい防除技術の習得

- 天敵ダニ製剤を導入した生産者が7人（昨年比+1人）
ダニ製剤の使用上のポイント等が正しく理解され、ハダニ類の効果的な防除や殺ダニ剤の使用低減等、環境にやさしい防除技術の普及につながっている。



ハダニ類を捕食するミヤコカブリダニ（左側）
（アリスライフサイエンス株式会社 ホームページより）

生産者の声
町独自の支援策が導入の下支えになっており、
とても助かっている。

7

4. 今後の対応

(1) ジョイントV字樹形栽培技術の定着

- 定期巡回（週1回程度）による栽培技術支援の継続実施
- 技術情報資料（9・10・3月に各1回）による情報提供
- 今年度の病害虫の発生状況を踏まえた、次年度の病害虫防除のポイントについて指導
- ジョイントV字樹形 植栽1年目（R8年春に植栽した樹）のせん定技術の浸透
- ジョイントV字樹形 植栽に当たった技術支援（R8.8月～ほ場整備→R9年春に植栽）
- 天敵ダニ製剤導入の啓発継続（メリット、使用上のポイント等）



(2) 環境にやさしい防除技術の習得

- フェロモントラップ調査の継続実施による発消長データの把握
- 天敵ダニ製剤導入生産者のハダニ類発生状況確認
- 今年度の病害虫の発生状況、フェロモントラップ調査データ、既存剤の効果、新規薬剤及び薬剤ローテーション等を考慮した地区防除暦の作成支援

8